

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510339

研究課題名(和文) どのように市場を統治するか：インドネシア、タイ、フィリピンの事例研究

研究課題名(英文) Economic Governance in Indonesia, Thailand and the Philippines: the Case of Banking Sector Reforms

研究代表者

美甘 信吾 (MIKAMO, Shingo)

信州大学・学術研究院社会科学系・教授

研究者番号：90377614

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：市場を機能させ安定的な経済成長を導く経済ガバナンスの制度的特徴は何か。本研究では、インドネシア・タイ・フィリピンを中心とする東南アジア諸国の金融・銀行業改革の政治過程を分析し、政治制度と経済ガバナンスの関連性を究明する。経済ガバナンスは複雑な概念だが、経済・金融危機に対処し重要な改革法案を成立させるために必要な政権の政策統合力を高める政治制度と規制の中心となる国家機構(中央銀行)の双方に着目する必要性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：What are factors that improve economic governance? How do political institutions affect economic governance and reforms? This research examines the political process of banking sector reforms after economic crises during the past three decades in Indonesia, Thailand and the Philippines. This research reveals that both independent and effective central bank and political institutions that strengthen integrative power of the government for critical economic and banking reforms are vital to improve economic governance.

研究分野：国際政治、東南アジア政治経済、開発学

キーワード：経済ガバナンス 政治制度 東南アジア政治経済 金融改革 中央銀行改革 国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル化、地域経済の相互依存が強まる中で、市場を適正に規制し危機を管理し持続的な経済成長を導く経済ガバナンス研究の重要性は増している。本研究は経済ガバナンスの課題について、金融・銀行業改革の政治過程を分析し、政治制度との関係性に着目し考察する。

(2) 経済ガバナンスは複雑な概念であり、概念を整理し、実証的な比較事例研究により、経済ガバナンス改善のために必要な政治制度の特徴を究明する重要性は高い。

(3) 東南アジア諸国に着目するのは、日本経済にも関連が深く、今後のアジア・世界経済においても重要性が増すことが予想される地域だからである。また、東南アジア諸国は、民主的な政治制度の構築と経済改革に同時に取り組んでいる点で、他の地域の新興国と同様である。アジアの新興国の比較事例研究は、政治経済改革課題に直面しているラテンアメリカやアフリカなど他の地域の多くの国々にとっても重要な知見を提供できる。

(4) 東南アジアの新興国（インドネシア、タイ、フィリピン）の経済改革（金融銀行業改革）の政治過程を比較分析した研究は、まだ少ない。改革を推進（もしくは停滞）させた要因はなにか。経済改革の政治過程を明らかにする必要がある。

## 2. 研究の目的

(1) 市場を機能させ安定的な経済成長を導く経済ガバナンスの制度的特徴は何か。本研究では、インドネシア・タイ・フィリピンを中心とする東南アジア諸国の金融・銀行業改革の事例を分析し、政治制度と経済ガバナンスの関連性の解明を試みる。市場機能を活かす適切な規制やガバナンスのあり方は、アメリカやヨーロッパの金融・経済危機後、再び議論が活発化している。どのように市場を統治するか。今後成長が期待される東南アジア諸国の事例を分析し知見を得たい。

(2) 経済ガバナンスは、複雑な概念であり社会科学の研究分野によってもアプローチが異なる。経済ガバナンスは改善されているのか。インドネシア、タイ、フィリピンでは、どの国の経済ガバナンスが優れているのか。概念を整理し、論点を明確化する。

(3) 経済改革（金融銀行業改革）は、重要な政治課題であり、どのような政治過程を経て改革が進められたのかを明らかにする。インドネシア、タイ、フィリピンで、金融銀行業改革を促進（もしくは停滞）させた要因を究明する。

## 3. 研究の方法

(1) 東南アジア諸国の事例を国や地域の歴史社会・政治経済制度の文脈を重視し分析する地域研究のアプローチから探究する。

(2) 経済ガバナンスと政治制度に関する既存研究と各国の通貨・金融危機への対応、その後の経済・金融銀行業改革に関する既存研究のレビューを行い、既存研究の課題を明確化する。

(3) 議会・行政資料調査、各国の雑誌・新聞記事収集、政策担当者（官僚・政治家）や専門家（民間企業経営者も含む）に対するインタビュー調査により情報を収集分析する。

(4) 研究期間中、途中成果を学会発表や論文にまとめ、学会参加者や論文評価者によるフィードバックを受け、議論や論点を明確化し成果の改善を継続的に行う。

(5) 現地調査において、現地の専門家、実務家との議論を通じて、成果が現実的な経済ガバナンス課題の明確化に寄与するように留意する。

## 4. 研究成果

(1) 東南アジアの新興国（インドネシア・タイ・フィリピン）の経済・金融危機後の金融・銀行業改革の過程を分析し、経済ガバナンスの概念を明確化した。経済ガバナンスは、複雑な概念だが、経済・金融危機に対処し重要な改革法案を成立させるための政権の政策統合力を高める政治制度と規制の中心となる国家機構（中央銀行）の双方に着目する必要性を明らかにした。

(2) ガバナンスの改善に関する公式・非公式な政治制度的要因を特定する上で、少数の国の詳細な比較事例研究の有効性を明らかにした。

(3) インドネシア・タイ・フィリピンで現地調査による資料収集と政策形成に影響力のある官僚（中央銀行幹部）・民間企業幹部・学識経験者などにインタビュー調査を行い経済改革の政治過程を明らかにすることに貢献した。

(4) 過去30年間程のインドネシア・タイ・フィリピンの中央銀行改革を比較した結果、独立性や組織の効率性の改善に関しては、フィリピン中央銀行の優位性が認められた。但し、そもそもフィリピン中央銀行は、財政的資源がタイやインドネシアの中央銀行に比較し、低かった点には注意が必要である。

(5) タイ・インドネシア・フィリピンでは、重要な金融・銀行業改革が、経済危機の後、民主主義への移行や不安定化という大きな政治変動下で行われた。民主主義的制度は、利害の調整を複雑化し、経済改革を停滞させる可能性がある。しかし、本研究では、常に民主主義が経済改革の停滞の要因になる訳ではなく、政策形成過程の透明性を高め、政権の正統性を向上させ経済ガバナンスを向上させる可能性も示唆した（フィリピンの事例）。

(6) 不安定な新興民主主義国において、重要な金融銀行業改革を推進するためには、政治家、官僚、ビジネスセクターの政策合意形成を促す公式・非公式な政治制度が特に重要であることを明らかにした（フィリピン・ラモス政権での成功事例、タイとインドネシアでの改革の停滞）。

(7) 過去30年程度のインドネシア・タイ・フィリピンの金融銀行業の改革の政治過程を分析した結果、経済ガバナンス改善に関してはフィリピンの優位が示唆された。しかし、フィリピンの経済ガバナンスにも課題が多く、一定の期間の特定のセクター（金融銀行業）の事例分析には限界もある。今後の課題として、さらに他の重要な経済改革事例分析（経済インフラの整備、税制、福祉医療、農業改革、経済外交など）により、多角的に経済ガバナンスの課題を究明する必要性を明確化した。

(8) 現地調査の際に、タイ・インドネシア・フィリピンで代表的な大学や研究機関、中央銀行などを訪問し専門家と議論を重ねた結果、東南アジア政治経済に関心のある研究者のネットワークを構築することができた。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

(1) 美甘信吾、フィリピンの経済ガバナンスは改善されているか：一国事例研究の可能性、アジア太平洋討究、査読なし、第21号、2013年、pp. 8-13

(2) MIKAMO SHINGO, Business Associations and Politics in the Post-EDSA Philippines: Neither Oligarchy Nor Civil Society,

Philippine Political Science Journal, 査読有、Vol. 34, No1, June 2013 pp.6-26

(3) MIKAMO SHINGO The 'development' of political science: Which way now in the Philippines? 信州大学経済学論集、査読有、第64号 2013年 pp.1-14

(4) 美甘信吾、アジア新興国におけるビジネスと政治：フィリピンのビジネス・アソシエーションの事例研究、信州大学経済学論集 査読有、第63号 2012年 pp.1-39

〔学会発表〕（計4件）

(1) 美甘信吾、東南アジア諸国の経済ガバナンスは改善されているか：フィリピンとタイの金融ガバナンスの比較研究、2014年アジア政経学会西日本大会 京都大学 2014年11月29日

(2) MIKAMO SHINGO, Peculiar Stability: Banking Reforms and Politics in the Post-EDSA Philippines, 1986-2010 The 2014, Association for Asian Studies, Annual Conference: Philadelphia, USA 2014, 29 March 2014 Panel Title: Rethinking Philippine Studies through Histories of Money and Finance: New Perspectives on Colonialism, Nationalism and Democracy

(3) MIKAMO SHINGO, Articulating and Analyzing Current Issues of Politics and Governance in the Philippines (Panel Chair), Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ), February 28 – March 1, 2014, Centre for Southeast Asian Studies, Kyoto University

(4) 美甘信吾、フィリピンの経済ガバナンスは改善されているか：一国事例研究の意義と限界、フィリピン研究全国フォーラム 2012年7月15日 京都大学

〔その他〕

研究会発表

美甘信吾、金融と政治：何が問われているのか、「フィリピン長期経済統計」研究会、2014年3月5日、一橋大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

美甘 信吾 (MIKAMO, Shingo)

信州大学・学術研究院社会科学系・教授

研究者番号：90377614

(2) 研究分担者：該当なし

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者：該当なし

( )

研究者番号：